

2012 年 9 月 14 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 谷本 寿男

ベトナム国 チュンロン～ミートゥワン高速道路事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2012 年 8 月 24 日(金) 14:00～16:40
- ・場所：JICA 本部 (会議室：2 階 212 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、佐藤委員、谷本委員、原嶋委員 (石田委員はメール審議にて参加)
- ・議題：ベトナム国 チュンロン～ミートゥワン高速道路事業協力準備調査(協力準備調査(有償))に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：事前配布資料(スコーピング案)
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010 年 4 月)

全体会合(第 28 回委員会)

- ・日時：2012 年 9 月 7 日(金) 14:30～17:46
- ・場所：JICA 本部(会議室：2 階 229 会議室)

上記の会合に加え、メール審議により助言を確定した。

助言

全体事項

1. 環境影響評価報告書の作成から4年を経過しており、現在までの環境ならびに社会面における対象地域の状況変化を確認すること。

スコーピング案について

2. 事前資料におけるスコーピング表の評定のCには、「影響が少ない」と「影響の程度があきらかでない」という二つの異なる定義が含まれている。よって、この評定の設定を見直し、必要に応じて修正すること。

環境配慮について

3. メコンデルタ地帯における多様な生態系については、管理している政府機関や団体などの活動を確認すること。
4. 調査対象および周辺地域においては、多くの河川があることから、そこに生息する回遊魚を含む魚類に特に注意を払い、既存資料および、有識者ならびに地域住民からの聞き取り調査によるデータをもとに、絶滅危惧種、固有種ならびに主要な動植物の数年間にわたる生息状況を確認すること。
5. 水利権への影響について確認し、スコーピング評価に反映させること。
6. 「土地利用や地域資源利用」について、土地利用や地域資源利用の多様化が進むことにより、経済発展が進む可能性も考えられる一方で、土地や地域資源の無秩序な開発の結果としての負の累積的な影響も予見されることから、類似事業の事例調査を行うこと。
7. 騒音・振動対策として検討されている街路樹の設置について有効性を確認すること。また樹種の選定に当たっても、出来るかぎり在来種とすること。
8. 現状で大気質（二酸化硫黄）及び騒音の測定結果がベトナム国の環境基準を満たしていない原因を確認すること。
9. 盛土材や骨材の採取場所について明らかにし、これらの採取・調達が環境面および社会面に与える影響について確認すること。
10. パーキングエリア／サービスエリア等の新たに整備される施設に関し、
 - ・ 廃水はベトナムの排出基準と整合しているかを確認し、明記すること
 - ・ 廃棄物はベトナムの規定に従って適切に処理・処分されるかを確認し、明記すること。

社会配慮について

11. 多数の住民が居住していることを踏まえ、文化的・宗教的施設の位置と主要なアクセスルートを図示すること。
12. 住民移転計画を現地の社会状況に合わせアップデートした上で JICA ガイドラインに基づいた計画の策定支援を行い、特に、以下の点について配慮すること。
 - ・ 非正規居住者
 - ・ 補償水準

- ・ 小ビジネス従事者や零細漁業者・養殖者を含む貧困層・社会的弱者
- ・ 苦情処理のしくみ

ステークホルダー協議・情報公開について

13. 既に実施されたステークホルダー協議で「農業排水施設への影響」や「排水施設等農業への影響」が懸念されているが、これらの問題をスコーピング表の「4. 社会基盤／施設」及び「22. 水質汚濁」の項に明記すること。
14. 現状では JICA ガイドラインを満たした形式でステークホルダー協議が行われていないので、ガイドラインの要件を充足する形式で協議の開催を提案すること。
15. 今後行われるステークホルダー協議において、各コミュニティの主要意見の発信者属性（村落における地位や属性、社会的弱者の意見の有無など）を明確にすること。

以 上